

1	第1回定例会 ライブ中継の開始について 編集委員会より
2～6	各会派代表質疑

市議会だより

令和3年5月号

〒583-8585 羽曳野市誉田 4-1-1
羽曳野市議会事務局 Tel.072-958-1111
羽曳野市ウェブサイトからご覧いただけます。

令和3年第1回定例会報告

「市長の施政方針に対する各会派代表質疑」

第1回定例会

令和3年最初となる第1回定例会は、2月26日から3月30日までの、33日間の会期で開催しました。

第1回定例会では、山入端市長の施政方針に対する5会派による代表質疑、8名の議員による一般質問が行われました。

また、条例の制定や一部改正、令和3年度の一般会計及び各特別会計予算など、31件の議案が上程され、審議を行いました。

今月号では、代表質疑の内容を中心に報告し、一般質問の内容や各常任委員会の審査報告、審議された案件の議決結果等は6月号に掲載いたします。

●ライブ中継の開始について

市民の皆さまに市議会を身近に感じていただくため、本会議の様子をリアルタイムでご視聴いただけるライブ中継（生中継）を第1回定例会の最終日より開始いたしました。これまでの録画中継も引き続きご視聴いただけます。

次のライブ中継は6月定例会です。ぜひご視聴ください。

◆編集委員会より◆

令和3年第1回定例会が3月30日に閉会しました。第1回定例会では、新型コロナウイルス関連をはじめ、市民の暮らしに関わる議案が上程され、本会議や委員会でも議論されました。

前年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で学校園は休校（園）となり、様々な行事等が縮小・中止になってしまいました。今年度になっても、感染は収束するどころか、4月初旬には第4波に見舞われ、大阪府内での感染者数は過去最多を更新しました。また、変異株の広がりも深刻なものとなっています。学校（園）は通常に戻っていますが、市民フェスティバル等の市のイベントや恒例行事は、ほとんどが中止または延期となっています。

羽曳野市では、2月下旬に市民の皆様にご協力いただき、はびきのコロナアムにおいて、ワクチンの集団接種を想定したシミュレーションを実施しました。実際の日程等はまだまだ決まっていませんが、新しい情報やお知らせは随時、市ホームページに掲載されますので、ぜひご覧ください。

第1回定例会の最終日より、本会議の模様のライブ配信を開始しました。また、「QRコード」の掲載にも引き続き取り組みます。

これからもわかりやすく、議会を身近に感じていただけるような紙面づくりに努めてまいります。ご意見等ございましたら、ぜひお寄せください。

《市議会だより編集委員》

- | | |
|-------|-------|
| 広瀬 公代 | 竹本 真琴 |
| 外園 康裕 | 花川 雅昭 |
| 渡辺 真千 | 上藪 弘治 |
| 黒川 実 | |

笠原由美子（公明党）



《行政改革の推進について》

●質疑 市民の利便性を向上させるだけでは市民はついては来ない。人間主義の中に血の通う市民サービスであることが大事。多くのツールやメニューを取り揃えるだけで、市民の利便性の向上が図られるのか。

●市長 コロナの感染拡大を防ぐことが主で、3密を避けるため市民が来庁せずに手続を済ませることが大事。新年度に電子申請を導入し、市からの返答も郵送やメールで行えるようにする。

●要望 受け手側の市民が使える環境整備が不可欠。ハード面、ソフト面の両面からの検討と、特に高齢の方に対するスマートフォンやIP電話の買換え時の補助金制度の創設を要望する。

《子育て支援・学校教育の充実について》

●質疑 ①未来を担う子どもへの投資の重点的実施とは。②安心して出産、子育てができ、切れ目のない支援体制の充実と、子育て世代の負担軽減を図る子育て世代包括支援センターの強化について。③ICT教育の独自性と、社会の変化に対応し、主体的に関わることでできる力を育成する教育とは。

●市長 ①新年度は専門的な相談対応や訪問等による継続的支援を行う子ども家庭総合支援拠点を設置。②児童虐待対策を含む子育て支援の拠点として切れのない子育て支援を図る。③子どもたちの学習サポートに大型モニターを各教室に配置。児童・生徒用のタブレットドリルも早期納入に努め、学校教育でのICTを最大限活用する。

●要望 子育て世代包括支援センターが現在稼働している。妊娠期から出産産後ケアという幾つものフォロー体制の中、専門性を有し、市民に寄り添える体制が大事。ICT教育は素晴らしいが、「オンライン授業ができるなら、もう学校に行かなくてもいいのでは」という発想が問題。オンラインと対面授業の二項対立が必要。コロナ禍で生きている子どもたちは、全てを学びのチャンスとして生き抜く力を学ばなければ、GIGA教育もICT化も、大きなプラスと捉えて積極的な取組を要望する。

《健康・福祉の充実と向上について》

●質疑 ①介護予防とライフステージに応じた健康づくりは、コロナ感染症によつて健診での早期発見と早期治療の流れが滞っている。特定健診、各種がん検診等の受診フォロー体制は。②重層的支援体制整備事業は、介護、障害、子ども、困窮の制度ごとに分かれている相談支援の関連事業だが、財政支援を一体的に実施する取組や、断らない福祉の実施について聞きたい。

●市長 ①健診の受診率向上は、受診機会を逃した方に対し新年度も受診できる体制を整備する。②重層的支援体制整備事業は国が求める期間を1年前倒しして、令和4年度中に本格実施を目指す。

●要望 本格実施に向け、課題の分析を行い、重層的支援体制事業と財政支援を一体的に実施することを要望する。

《安心・安全なまちづくりについて》

●質疑 ①感染症対策を含めた避難所の機能の強化について、一部非構造部材の耐震化、空調設備は未整備。ソフト面では感染症に対応した運営と備蓄物資について聞きたい。②空家対策について、当市の取組は。

●市長 ①国や府のガイドラインを参考に、避難所機能の強化に取り組む。避難所内の感染予防とプライバシー保護の間仕切りテントも計画的に購入する。②空家等対策協議会や特定空家等判定委員会のリモート会議も視野に、特定空家等の認定が停滞することがないよう取り組む。

●要望 さらに避難所機能の強化を要望する。空家対策は近隣の方に経過報告や状況報告を年に2回程度することを要望する。

《快適でうるおいのある住みよいまちづくりより》

●質疑 公共施設福祉循環バスは高齢者等、市民の移動をフォローするもの。さらなる利便性の向上等について聞きたい。

●市長 商業施設や医療機関等の協力を得て、敷地内に停留所を設けるなど、利便性の向上を図る。

●要望 停留所の増設、商業施設や医療機関等との取組を期待する。また、高齢者の民間タクシー利用に対する検討に本腰で取り組むことも強く要望。

《ともに支え合い健やかに暮らせるまちより》

●質疑 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域包括支援センターの複数設置の考えは。

●市長 第8期高齢者いきいき計画では、生活圏域を5か所から3か所に変更し、各圏域に設置を予定している。

●要望 民間の力を活用し、充実した取組を期待する。また、役所の地域包括支援センターの役割は大きく、中心的に取り組み、任務の遂行を要望する。

《未来に羽ばたく子ども・若者を育むまちより》

●質疑 ①幼稚園、保育園等の登園管理システムの導入とは。②虐待が分かりにくい社会であるからこそ、子ども家庭総合支援拠点が重要だが、設置についての考えは。

●市長 ①保育業務のICT化を推進し、保護者の利便性の向上や職員業務の負担軽減につなげる。②虐待の相談件数は毎年増加しており、子ども家庭総合支援拠点を設置し、虐待対応専門員、子ども家庭支援員を配置する。

●要望 子ども家庭総合支援拠点の設置は必要。虐待防止の観点から取組を要望する。

《魅力発見賑わいと創造にあふれるまちより》

●質疑 SNSを活用した情報発信に取り組むことは素晴らしい。しかし、市民が使えるなければ意味がない。市民が使える仕組みを考えるべきだが。

●市長 有効な情報発信するには、多くの方の利用が必要。動画でLINEの使い方をホームページや広報で発信するなど、多くの方が活用できるように取り組む。

●要望 市民が使える環境を整えることが不可欠。市として環境整備を検討することを要望する。

《市民とともに築く自立したまちより》

●質疑 マイナンバーカードの普及と推進へのさらなる取組は。

●市長 窓口がオンライン化されることで、効率的な業務が実現する。新年度は出張申請サポートと常設の申請会場の設置等、サポート体制を拡充する。

竹本真琴（大阪維新・無所属の会）



《「行財政改革の推進」より》

●質疑 今後はどのようなデジタル行政を目指していくのか。

●市長 市民がいつでも、どこでも手軽に手続やコミュニケーションが可能となる市役所を目指していく。新年度はウェブ会議の活用により新型コロナの感染拡大防止。会議録作成システム、チャットツール、AIOOCRなどの導入により、業務の効率化を図っていく。今後は基幹系等のシステムを標準化することで運用経費の圧縮を目指すとともに、クラウドシステムに移行していく。

●要望 今後は電波インフラの拡充や、観光、福祉、防災等にICTを利活用できるように研究し、行政サービスや役所業務の向上を図ることを要望する。

《「子育て支援・学校教育の充実」より》

●質疑 どのような構想を持って空間づくりを進めていくのか。

●市長 要望の多いボール遊びができる場所を旧高鷲北幼稚園の跡地に計画していく。今後は楽しい遊びができる空間整備をそれぞれの地域環境に応じて検討していきたい。

●要望 今後はボール遊びに続いて要望の多いスケートボードを楽しめる施設整備等も検討されることを願う。

《「健康・福祉の充実と向上」より》

●質疑 地域包括ケアシステムを今後

はどのように深化、推進していくことを考えているのか。

●市長 体制強化のために地域包括支援センターを増設し、ふれあいネット遊びの活動の中で包括的な相談支援体制を構築し、生活支援、介護予防の地域資源の開発等、さらに強化を図っていく。

《「交通・インフラ整備の促進」より》

●質疑 周辺自治体と連携し、当市の東地域に接面する西名阪自動車道にスマートインターチェンジを設置することにより、交通アクセスや近隣住民の利便性が向上すると考える。また周辺自治体との連携によって費用負担も軽減されると考えるが、スマートインターチェンジの設置に対する見識は。

●市長 設置することでの利便性の向上が図られるものと認識している。中小企業団地や周辺地域の利便性が向上することで、地域の活性化が促され経済効果も期待できることから、動向の把握に努めたい。

《「魅力あるまちづくり」より》

●質疑 具体的にどのようなマーケティングや手法によって観光行政を充実させていくのか。

●市長 大阪観光局をはじめ各種団体、地元企業等へも広くパートナーを求め、新しい生活様式に沿った観光の在り方の検討と、SNS等をはじめとした情報発信や来訪者の傾向をデータ化して分析するなど、ICT技術についてより積極的に活用していく。

《「快適でうるおいのある住みよいまち」より》

●質疑 一般府道郡戸大堀線及び恵我ノ荘駅前南側広場の整備促進や都市計画道路八尾富田林線の羽曳野工

区第2期整備の促進のワークフローを構想は。

●市長 一般府道郡戸大堀線歩道設置事業については、駅前ビルの用地交渉に着手すると報告を受けている。恵我ノ荘駅前南側広場整備事業については、大阪府と連携、協力し、恵我ノ荘駅周辺の交通環境の改善と安全対策の推進に向け高度な専門的知識を有する者を任用し、府と足並みをそろえて事業の推進を図っていきたい。八尾富田林線の整備促進については、関係する市道の整備として、八尾富田林線に接続する（仮称）羽曳が丘西65号線及び国道170号に接続する河原城駒ヶ谷線の整備の必要性を認識している。

《「子ども・若者を育むまち」より》

●質疑 給食センターの方向性についての見解と、今後のスケジューリングは。

●市長 中学校の全員給食を事業化できるよう、現在給食センターを含む全体の事業スキームを客観的に評価した上で、最適な手法により全員喫食の実現を目指している。

《「魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち」より》

●質疑 コロナ禍に対応した新たな企画であるサイクルツーリズムについて、大阪観光局や周辺自治体と連携するということだが、どのようにターゲティングするのか。

●市長 市外の方には来訪のきっかけと当市での新たな楽しみ方を提供し、市内の方にとっても外出等による運動機会の提供と地域の再発見につながる取組として進めていく。

《「歴史・文化が息つき 心身ともに躍動するまち」より》

●質疑 市民プール整備の進捗状況と施設の詳細、供用開始までの計画は。

●市長 3月末までの予定で実施設計業務に取り組んでいる。プール施設は、学校プール授業でも活用する25メートルプールや、水深70センチメートルの小プールのほか、幼児プール内には水鉄砲や噴水、滑り台等の遊具を設置する予定。また隣接するエリアに多目的スペースを設け、夏場の市民プール開放時にはビニール製のスライダープール等の遊具を配置し、一体的に利用いただくことにより、幼児や小学生などが楽しめる施設を考えている。多目的スペースは、市民プール開場時以外の期間においてボール遊びができるスペースとすることで、年中を通して利用できるように計画している。

●質疑 今後のスケジューリングは、新年度当初に施工者を選定し、7月頃からプールを解体。令和4年6月の学校プール授業開始までにプール施設の整備を完成させ、プール授業終了後に市民プールとしてオープンする計画で進めている。新年度の夏はプールの整備中であるため、令和元年度同様、駒ヶ谷小学校でビニール製のスライダープール等を設置し、幼児や小学生等がより楽しめるプールの無料開放事業を計画している。

《「市民とともに築く自立したまち」より》

●質疑 (仮称) おくやみ相談窓口の具体的なワークフローは。

●市長 手続に來られた方が、故人に関する情報を改善するため、ICTを活用し、各種届出書や申請書のデジタル化を図っていきたい。

笹井喜世子（日本共産党）



《コロナ禍での市民の命と暮らしを守る市政運営について》

●**質疑** ①3度の感染が拡大する中、市長はワクチン接種が感染対策の決め手と言われるが、全国では無症状の感染者へのPCR検査が大規模に進められている。大規模にPCR検査を行うことが感染予防の決め手だが、考えは。

②第3波で自粛を強いられる下、経営困難な事業者や医療機関への減収補填など国の支援策は不十分だが、市長の見解は。また、市独自の支援策は。

●**市長** ①コロナ感染の予防策はワクチン接種が最も有効で重要と認識し、円滑に進めていきたい。社会的検査としてPCR検査は必要だが、無症状者まで一律に検査することは適切ではない。②市民生活や地域経済への影響は深刻化しているため、十分な対策や財政支援について市長会等を通じて意見していく。独自支援策はまとまり次第示していく。

●**要望** ワクチン接種は今すぐの決め手にはならず、決め手はPCR検査である。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金も活用し、市独自で無症状者への検査体制の拡充を強く要望。大阪府には、社会的検査に積極的に取り組むことを、また国や大阪府に対しては、自粛と補償を一体とする財政支援を求めることを要望。市独自

支援は市民に行き届く対策を要望。

《行政改革の推進について》

●**質疑** ①行政改革を進める視点は。②国がデジタル庁を創設して、行政サービスをデジタル化し、AIやロボティクスを活用する仕組みを確立する中、市もデジタル社会に対応した役所へと変革させるとしているが、市民サービスや職員体制にどのような影響をもたらすのか。

●**市長** ①今後一層厳しい財政状況となるのが予想される中、持続可能な行政運営の確立のため、収入に見合う支出構造にすることが必要。②デジタル化で業務を自動化することにより、住民サービスに今まで以上にきめ細かく対応できる。市民に直接対応することは基礎自治体の役割であり、今後も適材適所の職員配置、人員確保など行政サービスの向上に努める。

●**要望** 行政改革は財政状況だけを見るのではなく、市民の生活実態を把握し、命、暮らし最優先の市政運営を強く要望。デジタル化で迅速かつ的確な行政サービスが提供できるとのことだが、デジタル技術の使用の可否で行政サービスに格差を生んではならない。市役所の事業は人と人が対面し、相談して成り立つ業務である。AIの導入で職員を削減することなく、職員の専門的な知識や経験が蓄積できるように配置と、正規職員の確保を強く要望。

●**質疑** ①人口減少や少子化への取組の考えは。②少人数学級への見解は。③中学校全員給食の方向性は。

●**市長** ①就学前教育・保育のあり方に関する基本方針を見直し、小・中学校の適正規模を様々な角度から基本的な方向性を検討する。②国による35

人学級の段階的実施が決定し、中学校についても要望していく。また支援学級に在籍の児童・生徒が通常学級に戻る時間は、学級定数を超える学級があることは認識している。府、国に引き続き要望していく。③中学校の全員給食はまだ準備段階で、検討委員会や組織の構築についても教育委員会と方向性を検討していく。

●**要望** ①基本方針の見直しは必要だが、適正化の名の下に統廃合して小・中学校をなくすことは、地域のコミュニティがなくなると理解すべき。②豊かな教育のためにも、国の施策待ちでなく、市独自で少人数学級を実現することを強く要望。③検討委員会を立ち上げ、実施に向けた取組を強く要望。《安心・安全で住みよいまちづくりについて》

●**質疑** ①災害発生後の職員体制は。また、避難所となる体育館へのエアコン設置の計画とコロナ感染対策は。②地域公共交通を進めるため、市民も参加して議論や提案ができる組織づくりへの考えは。③公園の必要性と今後の整備計画は。

●**市長** ①災害時の避難所に今後女性職員の配置を検討。体育館へのエアコン設置の予定はない。コロナ対策に必要な備蓄物資を順次購入していく。②公共施設循環福祉バスを有効に活用し、民間事業者には、利便性が図られるよう意見、要望していく。③公園は良好な都市環境を提供する交流の場であり、市民生活に潤いを与え、避難場所となる防災機能を有し、都市の安全性向上に寄与している。整備については、公園の規模や配置状況、市民ニーズ、周辺環境などを総合的に勘案し、安全・安心な環境で子どもや高齢者が憩える全世代型の公園整備に努めていく。

●**要望** ①まだマンパワーは不足している。様々な補助金を活用し、体育館へのエアコン設置を進め、さらなる感染症対策を要望。②市が主体となつて、地域公共交通会議など、市民の声を反映させられる体制づくりを要望。③近年は小規模開発で、田や畑、緑がなくなり、緑豊かな羽曳野のまちづくりにとってマイナス。休耕地の借用や土地を取得するなどして、意識的、計画的な公園整備を強く要望。

《魅力あるまちづくりについて》

●**質疑** 企業誘致の促進で地域産業の再生と雇用の創出を図るとのことだが、地元の地域経済活性化策は。

●**市長** 羽曳野市中小企業及び小規模企業振興基本条例の理念に基づき、地域産業の活性化、地域経済への好循環に向けて不断の取組を進める。

●**意見** 同条例を生かし、羽曳野の個性に合わせた地域内の経済循環を基本とした地域づくりを、自治体、企業、住民が連携して生み出すことを提案する。

《市長の政治信条について》

●**質疑** ①日本国憲法の理念や地方自治体の本旨に則り、大切にしている基本姿勢は。公正かつ適切な市政運営とは。②SDGs推進のための具体策は。

●**市長** ①日本国憲法は国の最高法規であり、尊重し遵守していく。民主的、能率的な行政の確保を図り、地域における行政を主体的かつ総合的に実施する。②第6次総合基本計画の中期基本計画にSDGsの目指す17のゴールを関連づけ、あらゆる分野で総合的に取り組む。

●**要望** 憲法の理念を尊重し、遵守するのであれば、国民主権の立場で全体の奉仕者として、職務の遂行を求める。

黒川実 (自由民主党議員団)



《快適でつるおいのある 住みよいまち》より》

●質疑 ①都市計画道路八尾富田林線の羽曳野工区第2期整備とはどのあたりか。②関連道路の整備を検討するところがあるが、どう考えているのか。

●市長 ①学園前5丁目から南阪奈道路との間。広域防災拠点である八尾空港に接続する防災道路として必要不可欠だと認識している。②羽曳が丘、丹比地区の慢性的な渋滞の対策として八尾富田林線に接続する(仮称)羽曳が丘西65号線及び河原城駒ヶ谷線の整備を検討する。

●要望 八尾富田林線は防災道路として安心・安全のために早期の整備を要望する。羽曳が丘地区は外環状線の西浦交差点から道の駅、藤井寺駅、中央環状線方面の抜け道になり、西浦地区の開発で交通量が増え、西浦交差点は渋滞が発生し大変危険。八尾富田林線の前に関連道路の早期の整備を要望。

●質疑 ①雨水管整備に向けた事業認可業務の事業内容は。②羽曳が丘地区の管路の更新工事の内容は。

●市長 ①伊賀島泉幹線整備に伴い、下水道法に基づき公共下水道の事業許可区域拡大のための法的手続。②下水道管の老朽化対策として平成29年度から管路更新工事の整備を進めている、今後も管路の老朽状況を把握し、更新工事に努める。

●要望 羽曳が丘地区は開発から50年以上たっており、側溝や雨水管が著しく損傷している。下水道工事に伴って、市全域の側溝や雨水管の改修、整備を強く要望する。

《ともに支え合い 健やかに暮らせるまち》より》

●質疑 市長が府議の時代、幾度か大阪府に夜間小児救急の充実をお願いした。子育て支援の充実を図るなら、夜間小児救急は大変重要な課題だが、市長の見解は。

●市長 小児救急医療体制は非常に重要と認識しているが、夜間の小児救急は医師の確保、施設等の課題がある。市長会を通じて大阪府へ要望を行う。

●要望 安心して子どもを育てるためには医療機関の体制が重要。夜間小児救急について幾度も質問し、同じ答弁を何回も聞いたが前に進んでいないのが現状。子どもが夜間診察を受けるには遠くて大変で、命の危機に関わるかもしれない。今、大阪はびきの医療センターが建て替えどきになっている。関係機関、関係団体、南部地域の自治体と連携し、大阪はびきの医療センターが南河内地域の24時間体制の小児救急医療の中心となるよう強く要望。

《未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち》より》

●質疑 民間活力の導入、集約化や共同利用等、その在り方を総合的に検討するところがあるが、学校プールについてどんな政策を考えているのか。

●市長 全体的に老朽化が進んでおり、維持修繕、更新等の財政負担が大きくなり、効率的な活用が求められる。専門家の参加を求め、現状調査と在り方を検討し、計画的な取組を進める。

●要望 学校プールの老朽化が進む中、新教育長の下、課題に取り組みこを強く要望する。

●質疑 老朽化した給食センターについて、今後の市長の見解は。

●市長 官民連携、行政連携など事業スキームを客観的に評価した最適な手法で事業実施し、充実した学校給食の実現を目指す。

●意見 財政が厳しくても、安心・安全な給食を提供するためにセンターの新設を早急に考えるべき。中学校給食は、給食費が負担となることも考えられ、そして何より生徒の意見を尊重すべき。アンケート等を実施し、様々な観点から考えるべき。

●質疑 就学前教育・保育のあり方に関する基本方針をどう見直すのか。

●市長 基本方針策定当初の想定よりも公立幼稚園児数が少なく、定員に満たない園が複数存在するため見直す。●要望 見直す際に、地域によって様々な課題が出てくると思うが、しっかりと対応を要望する。

●質疑 就学人口の減少を踏まえ、統合や校区再編を視野に入れた適正規模化に向けた方策の内容は。

●市長 教育委員と議論の上、総合的に検討していく。

●要望 賛否両論で大変難しい課題であるが、地域の意見を尊重した適正規模化の方策を考えるよう要望する。

《市民とともに築く 自立したまち》より》

●質疑 地域担当制とは。

●市長 現行の地区を7つの地域に分けて、要望や課題等を一元的に把握しようとするもの。市役所でそれらを整理、集約し、地域カルテを作成して課題解決に取り組む。

●要望 地区長に負担がかかるのでは担い手の確保が難しくなる。そのようなことがないよう願う。

●質疑 なぜ今、この任期付職員制度を導入するのか。どんな事業に必要な

のか。

●市長 行政課題を円滑、迅速に処理するのが目的。法律の専門家、道路整備の推進、土地利用計画の検討、決定などに高度な専門知識を有する外部人材の活用が必要だと考える。

●要望 具体的な答弁が欲しかった。今議会でも条例として提出すべき重要なことなのか疑問。任期付職員の人選は限られた、言わば密室で行われ、公正、公平な任用であるのか疑念が残る。また、職員との関係性も懸念される。透明性の確保を要望する。

●質疑 人事評価制度のさらなる活用とは。

●市長 人事評価の結果を昇給や勤務手当等に反映させていないのは府下で当市だけのため、見直しを図る。

●要望 評価する職員が必ず甲乙をつけないといけないことを負担に感じ、職務に支障が出たり、精神的に追い込まれないようにしてほしい。

●質疑 市長が思い描いている公共施設のアクシヨンプランとは。

●市長 施設整備の進捗を踏まえて見直す。今後耐震性や老朽化の問題がある施設等の最適化に向けて施設整備の方針を検討し、また財政負担の軽減、平準化の面からも検討を加え決定する。

●要望 アクシヨンプランの見直しに当たっては、議員の意見もしっかり受け止めることを強く要望する。

《その他の質疑》

●避難所運営体制について

●リスクシナリオを回避する施策について

●登園管理システムについて

●子ども家庭総合支援拠点について

●おこやみハンドブック、(仮称)おこやみ相談窓口について

金銅宏親（市民クラブ）



《行財政改革の推進について》

●**質疑** 今後の広域連携についての考えは。

●**市長** 単独では難しいものや、広域による処理のほうがりットがあるものについては、周辺自治体との連携や協力を進めていく。今後も様々な分野において自治体間連携に取り組み、より効率的、効果的な市民サービスの提供を行っていく。

《子育て支援・学校教育の充実について》

●**質疑** 食育の重要性、方向性、将来のビジョンは。

●**市長** 食育により、心身の健康を保ち、健康寿命の延伸を図ることにつながるため、非常に重要であると考ええる。知育・徳育・体育の基礎と位置づけ、食育のための生きた教材である学校給食について、小学校から中学校までの義務教育課程において、全員給食の早期実現を目指したい。

《健康・福祉の充実と向上について》

●**質疑** 地域で高齢者を支える仕組みづくりのための地域の多様な主体とは何か。またどのように連携するのか。

●**市長** ふれあいネット雅びを構成している自治会や民生委員児童委員、老人クラブなど、校区福祉委員会の皆様のこと。ふれあいネット雅びを構成する地域組織と医療・保健・福祉の専門

職が連携し、地域の高齢者を地域で見守り、必要に応じて直接的に支援する仕組みづくりを推進する。今後、高齢者が生き生きと活躍できる地域の拠点を増やしていく。

《交通・インフラ整備の促進について》

●**質疑** 恵我ノ荘駅周辺の整備と、恵我ノ荘駅以外の市内4駅の今後の整備は。

●**市長** 恵我ノ荘駅の南側地域は、大阪府による一般府道郡戸大堀線歩道整備事業、当市による駅前南側広場整備事業を実施している。まずはそれらの事業を確実に完了できるように、大阪府と協力しながら事業を進めていく。整備後は、駅北側を含めた地域全体の活性化につながるよう、新たな整備を検討していく。また、市内の恵我ノ荘駅以外の4駅の周辺整備についても、世界遺産の古市古墳群や日本遺産の竹内街道、様々な観光拠点への来訪者の増加など、地域の実情に応じた魅力の向上を図っていく。特に、古市駅は、当市における中心市街地であるとともに、来訪者にとっての玄関口であるが、近年、市有地を活用した古市駅西側駐車場や古市駅東広場などのハード整備にとどまっている。今後はスピード感を持って都市機能の集約化を図ることにより、地域の魅力の向上につながる整備を進めたい。

《安心・安全なまちづくりについて》

●**質疑** 新型コロナウイルス感染症に対して必要な対策や適切な支援とはどのようなものか。

●**市長** 新型コロナウイルス感染症の拡大や発症を防ぐには、ワクチン接種が最も有効で重要であると認識してい

る。当市では優先接種となる高齢者を対象とした羽曳野プランの実現に向けて進めていく。羽曳野プランの内容は、個別接種、集団接種、巡回接種の3つの体制によるもので、個別接種は、かかりつけ医など普段より高齢の方々が頼りにされている医療機関による接種である。集団接種は、大勢の方が一同に接種を行い、巡回接種は、希望される特別養護老人ホームや有料老人ホームなどの高齢者施設に医師が出向き接種するもの。高齢者へのワクチン供給量の今後の見込みについて、当市における4月の供給量は、府下の65歳以上の人口の按分により、約3000人分。加えて、4月下旬に再度、府下の全ての市町村に約5000人分の数量が確保される。

《市民協働・地方自治について》

●**質疑** 市長が考える地域課題は何か。また、その解決方法は。

●**市長** 地域課題の一つとして、市民による町会への加入率の減少がある。今後の事業展開や活動方法などについて、区長等からご意見を賜り、解決に向けて地域の方々と一緒に研究してまわりたい。社会的課題については、これまでは解決を行政が担っていたが、これからは、行政とともに公共の一部を受け持つ担い手の育成や支援、その活動を推進することが重要だと考える。多様な主体とともに地域や社会的課題の解決に取り組んでいく。

《魅力あるまちづくりについて》

●**質疑** 企業誘致の考え方や施策は。

●**市長** これまでも企業誘致を促進する手法として、南阪奈道路や外環状線沿道など、幹線道路のポテンシャルを

生かし、地域経済の活性化を図るべき地域や、既に産業的事業が行われている市街化区域に隣接する地域については、市街化調整区域であっても、周辺の営業環境や住環境に配慮しながら、商業、工業、流通などの多様な土地利用を誘導する地区計画を決定してきた。企業の進出は、地域経済の活性化、自主財源である市税収入の確保、雇用の創出など当市の発展には不可欠。今後は企業誘致の機会を逃すことがないように、新しい取組も研究していく。

●**質疑** 企業誘致を促進する当市独自の優遇措置や魅力ある施策について。

●**市長** 先進市の取組状況やその成果を調査・研究し、進めていきたい。

●**要望** このたび、各項目に対する市長の考え方や方向性、また市長が思い描いている当市の将来のビジョンについてお聞きした。市長のこれまでに上に質の高い市民サービスを提供していくとの理念は、私たち議員と同じものだと思っている。私たち議員もいま一度原点に立ち返り、市民の皆様から信託を受けた議員として、二元代表制の意義を再認識し、奮闘しなければならぬ。施策や事業について、評価するのは市長でも行政でも議員でもない。最終的に評価するのは市民の皆様である。市民の皆様は羽曳野市に住んでよかった、また、これからも住み続けたいと思える、そして住んでいることを誇りに感じていただけるような羽曳野市をつくっていただくために、私たち議員も努力しなければならない。

市長も職員の皆様も、すばらしい羽曳野市の未来の構築に向けて努力していただくことを強く要望する。